二奇跡　馬太傳九章二十七節より三十四節まで

十九、イエス手を按けて醫し玉ひし二人の盲人の話を述よ　二十七―三十一節

二十、鬼に憑れたる暗啞をいやし玉ひし時人々イエスにつきて互に何と語りしや　三十二、三十三節

第四　議論問題

廿一、此の章中に幾何の奇跡を記せしや又た何々なるや

廿二、此の中何れの奇跡をイエスの方よりなし玉へるや

廿三、此中いづれを其醫されし人の信仰よりなし玉へるや

廿四、此中いづれを其友人の信仰又い其求に應じてなし玉へるや

廿五、醫し玉ひし凡ての人々に對して如何なる精神を表わし玉へるや

廿六、此の章中より學びたることに由れバイエスいかなる人ありしと考ふるや

第五　日課物語の筆記　第十三章終の註三十を見るべし

第十九章　ガリヲヤ第三即ち最終の傳道十二人を二人づゝ遣わし玉ふこと

銘句、凡そ人の前に我を知ると言ん者を我もまた天に在す我父の前に之をしると言ん人の前に我をしらずと言ん者を我も亦天に在す我父の前に之をしらずと言ん　太十〇三十二、三十三、

馬太傳十章二十四節より三十九節まで朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬可傳六章一節より六節まで馬太傳十三章五十三節より五十八節まで

月曜日　馬太傳九章三十五節より十章四節まで

火曜日　馬太傳十章五節より十五節まで

水曜日　馬太傳十章十六節より二十三節まで

木曜日　馬太傳十章二十四節より三十三節まで

金曜日　馬太傳十章三十四節より十一章一節まで

土曜日　馬可傳六章七節より十三節まで路加傳九章一節より六節まで

第二　復習問題　第十七章の註三十一と三十二を見よ

日曜日午後と月曜日の課題　註三十三を見よ

一、註三十一よ記したる第四篇第五篇の題ハ何か

二、其中に起りし重なる事蹟を順序よ述べよ　第十八章復習問題三より十五題を見よ

三、第六篇ハ何か其中よある九章を悉く擧げよ　註三十一を見よ

四、ガリラヤに於てパリサイ人イエスを殺さんと企てしハ何故なるや　可三〇一―六、

五、イエス其企を知りし時如何になし玉ひしや可三〇十四―十九、イエスは如何なる說敎をなし玉ひしや　太五〇一より七〇二十九、

六、其後イエス如何なる二ツの奇跡を行し玉ひしや　路七〇一―十七、

七、此等の事をきゝしときバプテスマのヨハネハいかゞせしや路七〇十八―二十三、

八、パリサイ人の家にて食事をなし玉ふときに如何なる事起りしや　路七〇三十六―五十、

九、第二ガリラヤ巡回傳道のときイエスと偕よ從ひしハ誰なるや　路八〇一―三、

十、イエスの鬼を逐出せし時パリサイ人之れにつきて何といひしや　太十二〇二十二―二十四、

十一、此の時イエスの親屬如何に思ひしや　可三〇二十一、

十二、イエスパリサイ人と激論の後よ語り玉ひし譬の中の一二を擧げよ　太十三〇一―五十三、

十三、此の譬を語りし其夕方イエス何處に行き玉ひしや又た其途中よて如何なることありしや　可四〇三十五―四十一、

十四、湖の對岸にて如何なること起りしや何故イエスハ歸り玉ひしや　可五〇一―二十一、

十五、カペナオムに於て爲し玉ひし四奇跡ハ何々なるや

十六、此の中の何れの事蹟を此の前の章題とせしや　可五〇二十二―四十三、太九〇二十七―三十四、

十七、此の章題ハ如何

十八、銘句を暗誦すべし

聖書練習問題を省く　註三十四を見よ

第三　筆答問題　註三十五を見るべし

火曜日の課題

イエスナザレよりふたゝび退けられ玉ふこと　馬可傳六章一節より六節まで馬太傳十三章五十四節より五十八節まで

附言　キリストの第三ガリヲヤ巡回傳道の期を二部より分つ第一ハイエス其弟子と偕に教を傳へ玉ふ時第二ハ十二人を二人づゝ遣はし玉ふ時ナザレにて退けられてとハ此等の第一部にあり

一、カペナオムを去りし後イエス何處へ行きしや　可六〇一、

二、イエス日曜日より何をおせしや　可六〇二、

三、人々イエスにつきて如何なることを曰しやまた如何なる感情をもちしや　可六〇三、

四、何故イエスハ其處より只わづかの奇蹟のみ行し玉ひしや　太十三〇五十八、

五、其處にて此の前に如何なること起りしやまた何時なりしや　路四〇十六―三十一、

六、何故ナザレ人ハイエスをうけざるや

答　其人々の中より偕に成長せし故にメシヤとして尊むことを好まざるなり

水曜日の課

十二使徒と偕に旅行なし玉ふこと　馬太傳九章三十五節より三十八節まで馬可傳六章六節

七、イエス市々邑々を歷めぐれる時何をおし玉ひしや　太九〇三十五、

八、イエスの人々に對して如何ある思をもち玉ひしや　太九〇三十六、

九、其時弟子に何といひしや　太九〇三十七、三十八、

十、其の言の意義の如何

答　イエスを知るもの多くなれば又また信ずる者も從つて增加すされば其人々に道を告ぐるものゝ必要なるを感ず

十一、今日に於ても猶イエスの事を語り聞す可き人あるや

木曜日と金曜日の課題

弟子を遣はし玉ふこと　馬太傳十章一節より十五節まで馬可傳六章七節より十一節まで

十二、イエス其弟子を遣はし玉ふありさまの如何　可六〇七、

十三、彼等如何ある力を授けられしや　太十〇一、

十四、第十三章に示せる如く十二使徒の名を順次に二人づゝ述よ　太十〇二—四、

十五、如何なる人々に行くべしと命じ玉ひしや　太十〇五、六、

十六、此如命じ玉ひしの何故なるや

答　此ハイエス先づユダヤ人に其教を傳へ而して後世界全國に及ぼさんとなし玉ひしが故なり　太二十八、〇十九暗誦すべし

十七、此の時彼等に如何なることをおすべしと告げしや　太十〇七、八、

十八、彼等の旅行に持行べきものハ何なりしや　可六〇八、

十九、凡て市に入りし時ハ如何なる人の家に宿かしや　太十〇十一、

土曜日の課題

教訓命令及び契約　馬太傳十章十六節より四十二節まで

二十、彼等其敵に對するゑ如何なりしや　太十〇十六―二十五（特に二十二を讀むべし）

廿一、敵とは何を指すや又た其敵等ハイエスゑ如何あることをいひしものなるや　二十五節太十二〇二十四を引合せよ

廿二、其敵等ハ後ゑイエスをいかにせしや　使二〇二十二、二十三

廿三、其敵等の反對を恐れざるためイエス其弟子に語りし雀の話を述よ　太十〇二十九―三十一、暗誦せよ

廿四、人々の前にイエスの事を自ら言表ハすことにつき何を語りしや　太十〇三十二、三十三、

廿五、イエスハ人々が幾何許の愛を以て愛することを望み玉ふや　太十〇三十七、

廿六、イエスの爲にハ如何なることをなすを望み玉ふや　太十〇三十八、

廿七、イエスの爲に如何なることなりとも他人に向つてなす時イエスハ之に

如何なる約束を與へ玉ふや　太十〇四十二、暗誦すべし

第四

隨意の課につきて第十三章註三十を見よ

第二十章　イエスの人望の極五千人を養ひ玉ふこと

銘句、人々イエスの行し奇跡を見て此ハ誠に世に臨るべき預言者なりと曰ふ　約六〇十四、

約翰傳六章一節より十五節まで朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬可傳六章十四節より二十九節まで

月曜日　馬太傳十四章一節より十二節まで路加傳九章七節より九節まで

火曜日　馬可傳六章三十節より四十六節まで

水曜日　馬太傳十四章十三節より二十三節まで

木曜日　路加傳九章十節より十七節まで

金曜日　約翰傳六章一節より十五節まで

土曜日　詩篇百四十七篇一節より二十節まで

第二　復習問題　第十七章三十一、三十三、三十四、註を見よ

日曜日午後の課

一、今學びつゝあるハ何篇なるや

二、此の篇中にて既に學びたる事蹟　第十九章復習問題三より十五題迄を見よ

三、イエスの第一旅行よりガリラヤの東邊に歸り玉ひし後其弟子と偕になし玉ひしハ何次の傳道なりしや

四、此の傳道の期ハ何々の二部に分れをるや

五、ナザレにて如何なることありしや

六、其後イエス十二使徒を選ハし玉ふに當り如何なる力を授けしや

七、如何よして宿を求めよと曰玉ひしや

八、人を恐るゝよ足らずといふことにつき如何なることを彼等に告しや
九、イエスを人々の前に言表すことよつきて如何あることをのべしや
十、イエスを愛することに就き何を述しや
十一、イエスに事ふることよ就ては如何
十二、些少のことなりとも基督信者たるの義務を他人に盡すものにゝ如何あ
る報ありとのべしや
十三、此の章の題ゝ如何
十四、銘句を暗誦すべし

第三　聖書練習問題

月曜日の課

一、種播其他の譬ゝ馬太傳の何章にあるや
二、右と同じ譬ゝ馬可傳何章にあるや
三、馬可傳第五章よ示せる三譬を述べよ
四、イエス十二使徒を遣わさんとす時彼等に教訓玉ひしことゝ馬太傳何章よ
あるや
五、十二使徒の名を記せるゝ馬太傳何章なるや
六、馬可路加使徒行傳にゝ何章よあるや
七、ポーロの手書中三ッの長き書の名を順次に述よ
希伯來書ゝ其中に數ふ可らず如何となれゞ其作者明かならざればなり
八、哥林多前後書に續きの四卷を擧げよ
九、其四卷よ次で短き書簡の二變あり何なるや
十、新約全書初の四卷ゝ何々なるや第二の四卷第三の四卷第四の四卷を悉く
擧げよ
十一、新約全書中に使徒ヨハチの書し五卷を擧げよ

第四　筆答問題

附言　此課中にゝ第一、分封の王ガリラヤの支配者なるヘロデイエスの多の

異能なる事を行し玉ふをき、イエスよつきて考へしと第三ヘロデに殺されしヨハネよつきて第三、十二使徒イエスの許に歸りたると並にイエスと偕よガリヲヤ海の北岸に至り暫時の休息をとりしと第四イエスの教を聞んとて集り來れるもの五千人を養ひ玉ひし奇跡之よりて人々イエスのメシヤなるを悟り强て王となさんとせしとを記す

火曜日の課

ヘロデとバプテスマのヨハネのこと　馬可傳六章十四節より二十九節まで馬太傳十四章一節より十二節まで路加傳九章七節より九節まで

一、第一巡回傳道中よてイエスよつきき、しものゝ誰あるや　可六〇十四初

二、其人ゝイエスを何といひしや　可六〇十四終

三、多の人ゝ何といひしや　可六〇十五、

四、ヘロデはヨハネに如何なる待遇をなせしや　可六〇十七—二十八、口答

五、ヨハネの弟子其主人の死体を葬りし後如何にせしや　太十四〇十二、

六、其弟子達他の人に其憂愁を訴へずしてイエスの許に來り其悲を告げしゝ何故なるや

七、我儕が悲める時の慰者ゝ誰なるや　哥後一〇三、四、暗誦せよ　哥四十一〇十、六十二〇十三、

水曜日の課

十二使徒の歸馬可傳六章三十節より三十四節まで馬太傳十四章十三十四節路加傳九章十、十一節約傳六章一節より三節まで

八、弟子達教を傳へカペナオムに歸る時如何あることをおせしや　可六〇三十、

九、イエス弟子と偕に何處より行しや地圖よて指すべし　可六〇三十一、路九〇十引合せよ

十、何故其處に行しや二の理由を述よ　可六〇三十一、太十四〇十一—十三、

十一、如何よしてイエス其弟子と共よ其處に行しや　可六〇三十二、

十二、人々如何よして其處へ行きしや　可六〇三十三、

十三、イエス其弟子達と偕に行し道路並よ人々の行きし路を地圖にて指べし

十四、何故人々ハイエスの行き玉ふところに必ず從へ行しや　約六〇二、

十五、イエスに從へし人々に爲し玉ひし二事を述べよ　可六〇三十四、太十四〇十四

木曜日と金曜日の課

五千人を養ひ玉ふこと　馬可傳六章三十五節より四十四節まで馬太傳十四章十五節より二十一節まで路加傳九章十二節より十七節まで約翰傳六章四節より十三節まで

附言　此の奇蹟ハ踰越節の時卽ちキリストの十字架に釘られ玉ひし一年前のことなりき

十六、日の暮んとする時弟子等イエスに向ひて何と曰しや　可六〇卅五、卅六、

十七、イエスピリポに何と尋ねしや　約六〇五、終

十八、ピリポ何と答へしや　約六〇七、

十九、イエス弟子達に何をせよと命せしや　可六〇三十八、初

二十、アンデレーイエスに何と答へしや　約六〇八、九、

廿一、イエス其時何を命じ玉ひしや　可六〇三十九、四十、

廿二、其命せし如くなせし後イエス何をなし玉ひしや　可六〇四十一、

廿三、其結果如何　可六〇四十二、四十三、

廿四、養われしものゝ幾人ありしや　太十四〇二十一、

土曜日の課

約翰傳六章十四、十五節

イエスを王とおさんとす　約翰傳六章十四、十五節

廿五、此の奇跡を見て人々何と曰しや　約六〇十四、銘句

廿六、如何なる預言に叶ひをるや　申十八〇十五、暗誦すべし

廿七、彼等ゝ何をなさんと謀りたるや　約六〇十五、初

廿八、イエス如何ようして之れを拒みしや　約六〇十五終、可六〇四十六、引合すべし

附言　此奇跡をなし玉る時ゝイエスの人望の極點なりき多の人々イエスに數月の間も從へ其行玉ふ異能なる事により之ぞ世に臨る可王なりと確く信じたり彼等が望し王ゝ只神妙なる力を以て而して彼等を常よ養ゝん其人なりき若しイエスを王とせゞ彼等ゝ世界万國の中最も偉大なる王國を建設うると思しが故イエスよ强迫て其王國を建んとを願り然どもイエスゝ之に從玉わざりし是を以て人々大に望を失へり

廿九、何故イエスハ王となるべきことを拒みたりしや

答　イエスは人々の心中より心靈の王國を起さんために來れり現世の王國を建立んためにはあらず

三十、此につきてイエスピラトに何といひしや　約十八〇三十六、暗誦すべし

冊一、舊約書中より之と類似せる奇跡あるや　王上十七〇八―十六、王下四〇一―七、四十二―四十四、

附言　王下四〇四十二―四十四に示せるパンと此奇跡に用たるパンハ大麥より製したる薄き餅なり此パン三にて一人前一度の食事に足るといふ

第五　隨意の課につきて　第十三章註三十を見るべし

第二十一章　イエスの傳道上の極点人々より見棄られ玉ふ事

イエスの傳道上の極点ハ紀元二十九年の春に起りしことなり此の一ヶ年前イエスハパリサイ人より安息日の守法につきて言玉ひし語より大に憎惡を受たり（第五篇第十一章を見るべし）數月の後またイエスハペルゼブルにより鬼を逐出すといふことより彼等と激論おし玉へり（第十六章）當時ガリラヤ人ハイエスを信ずること益々增加しイエスが現世の王となるべきを拒み玉ひしことゝカペナオムの會堂にて語り玉ひし難言により其十字架に釘られ玉ふ一ヶ年前迄は人々イエスを信じ多く從へりされど此の時よりして終まで遂にイエスを見棄て從ものあらざりき此事柄ハイエスのガリラヤ巡回傳道の終をしめすものなり

銘句、　イエス曰けるハ我ハ生命のパンなり我に來るものハ餓ず我を信ずるものハ恒に渴くことなし　約六〇三十五、

約翰傳六章二十二節より四十節まで朗讀すべし

第一　日課　註二十二、を見よ

日曜日　午後　馬太傳十四章二十四節より三十六節まで

月曜日　馬可傳六章四十七節より五十六節まで約翰傳六章十六節より二十一節まで

火曜日　約翰傳六章二十二節より二十九節まで
水曜日　約翰傳六章三十節より四十節まで
木曜日　出埃及記十六章一節より十六節まで
金曜日　約翰傳六章四十一節より五十九節まで
土曜日　約翰傳六章六十節より七章一節まで

第二　復習問題　第十七章註三十一、三十二、三十三を見よ

日曜日午後の課

一、此の前の章題如何

二、ヘロディエスのなしたる異能なることをきゝ何といひしや

三、ヘロデバプテスマのヨハネをいかゝ待遇しや其理由を述よ

四、巡回傳道より歸りし後イエス其弟子と偕に何處に行しや

五、イエスよ從ひしものゝ誰なるや其理由を述よ

六、イエス其弟子と偕に行き玉ひし道線と人々のゆきし道路とを地圖にて示すべし

七、イエスの許に集り來たりし人々よいかなることをなせしや

八、夕方になし玉ひし大奇跡ゝ何なるや

九、其時人々イエスにつき如何なることを語りしや

十、人々イエスに如何なることを望みしや

十一、何故イエスゝ人々の希望を拒み玉ひしや

十二、此章を以て何篇を終や及び其中よて學し九の章の題を述よ　十七章註三十一を見よ

十三、此章ゝ何に就て學びしや

十四、其銘句を暗誦せよ

第三　聖書練習問題

月曜日の課此の問題をよく研究すべし

一、五千人を養ひ玉ひし話は馬可傳の何章にあるや

二、約翰傳の何章にあるや

三、山上の説教ハ馬太傳何章にあるや
四、山上の説教中主の祈ハどこにあるや並に金言ハどこまあるや
五、凡て疲たるものハ我ま來れといふ言を以て初むる節三つあり何處にある
や（一同暗誦すべし）
六、四福音中最長ハ何書なるやまた最短ハ何なるや
七、ヨハネによりて記されたる新約書中の五卷ハ何々なるや
八、ペテロによりて記されたる二卷ハ何なるや
九、ヤコブまよりて記されたるハ何なるや
十、希伯來書に接く五卷の名を擧よ
十一、聖書の終りの二卷ハ何なるや
十二、十、十一題に問ふところの七卷の略字を示すべし

第四　筆答問題　註三十五を見よ

註卅六、此の課中には第一イエスの五千人を養ひ玉ひし後其夜ありし

ことの間にハイエス水上を行き玉ひペテロイエスの許に至らんとして溺れんとし其手を伸べイエスに助を乞ひしこと、第二イエスカペナオムの會堂にて生命のパンにつきて語り玉ひしこと之によりて人々即ち前の日イエスま迫まりて王となさんとせしもの彼を全く離れて從ハざりしことなり此の時よりイエスハ只其從へる十二使徒と信仰厚き人達を伴ひガリラヤを歴行き玉ふ

火曜日の課

水の上を行き玉ふこと　馬太傳十四章二十二節より三十六節まで
馬可六〇四十五—五十六、約六〇十六—廿一、

一、五千人を養ひ玉ひし後弟子達何をなせしや　太十四〇二十二、
二、イエス何をなし玉ひしや　二十三節

三、其時弟子達に如何なること起りしや　二十四節

四、早朝彼等の許に誰が如何として來りしや　二十五節

五、彼を見し時弟子達互ゐ何といひしや又たイエスハ何と曰玉ひしや　二十六、二十七節暗誦

六、ペテロハ如何にせしや其結果ハ如何　廿八節ー三十一節まで委しく述よ

七、イエス船に乘りし時如何になりしや彼等何と曰しや　三十二、三十三節

八、陸に着しときイエスの許に何人が集り來りしや又たイエス何をなせしや　三十四より三十六節まで、

水曜日の課

生命のパンの說敎　約翰傳六章二十六節より二十九節まで

九、人々野にて養れし後翌朝誰を尋ねしや彼等イエスに何處にて逢ひしや　約六〇二十四、二十五、五十九節

十、彼等がイエスに尋し初めの問は何なりしや　二十五節

十一、イエス彼等ハ何の爲に來り求めたりといひしや　二十六節

十二、何をなすべしと彼等ゐ告げしや　二十七節

十三、彼等の答ふる言(二十八節)によれバ工といふ語を如何に悟りしあるや

答　彼等ハ只宗敎上の儀式卽ち祈禱或ハ斷食の如きことを指していへるなり

十四、イエスハ如何ある意義を以て言しや　二十九節

木曜日の課

生命のパンの説教續き　約翰傳六章三十節より四十節まで

十五、彼等イエスを信ずる事につき如何なることを尋ねしや　三十節

十六、彼等ハ如何なる奇跡を舊約書中より引しや　三十一節

十七、此の奇跡につき知るところあるや　出十六〇一、三、四、十四—十六、三十五、

十八、何故彼等ハ此よつき語りしや

答　彼等ハ此の奇跡こそ舊約書中第一と思へり故にイエスもまた如此奇蹟をなし得んことを望みたる也

十九、此の要求ハ正當なるや或ハイエスハ既に彼等が信じ得る丈けの奇跡を多く行ひ玉へるや如何、イエスの爲し玉ひし奇蹟を擧げよ

二十、マナの話よりイエス己の事を指して何と語り玉ひしや　約六〇三十二、三十三、四十八、

廿一、人々如何なる要求をなせしや　三十四節

廿二、イエス之に何と答へしや　三十五節太五〇六と比べよ

廿三、何故彼等ハイエスを生命のパンとして受ざりしや　三十六節

廿四、凡て神の子を信ずるものにハ如何なる神の御意あることを告げ玉ひしや　四十節暗誦すべし約三〇十六を比べよ

金曜日の課

生命のパンの説教の終り　約翰傳六章四十一節より五十九節

廿五、イエスが天より降れりと言玉ひし時ユダヤ人如何にせしや　四一一節

廿六、其時イエスゝ前に曰し言を改めしや或は一層激しく繰返して云ひ玉ひしや　四十七、五十一節暗誦

廿七、世の生命の爲に其肉を與ふるとゝ如何なる意味か　五十一節

答　人を救ゝんために死よ玉ふをいふなり

附附　我よ就る(卅五節)之を信ずる(四十節)其肉を食ふ(五十一、五十三)之れ皆同じ意味あり即ち人々キリストを己の救としキリストの如くならんと思ふものにあらざれバ永生を得る事能はざるなり羅五〇一一二、使四〇十二、

土曜日の課

イエス人々より見棄られ玉ふこと　約翰傳六章六十節より七十一節迄

廿八、イエスよ從ひし多の弟子等其言を聞きし時何と云ひしや　六十節

廿九、彼等ゝ如何にせしや　六十六節

三十、イエス十二使徒に何と尋ねしや　六十七節

卅一、ペテロ何と答しや　六十八、六十九節暗誦すべし

第五　日課物語の筆記　第十三章註三十を見よ

第七篇

ツロ、シドンの海濱デカポリス及びカイザリヤ、ピリピの市よ微行なし玉ふこと

附言　教師ゝ左の註を讀其肝要なる處を生徒に說くべし

註卅七、此の篇ゝキリスト傳道の終の年の前半期即ち紀元二十九年の

春より夏期に至るまでの事蹟を記すガリラヤにある總ての人等は此時皆イエスを放れたり因つてイエス其處に成功ある働をなす能わずかつ安全ゑ道を宣ぶること能わざりし此後イエスの爲し玉ふ可きことゝ其弟子等をして彼の教の奥義を悟らしめ以て其業を繼がしめんとせしと也イエス其弟子達を教訓しまた其敵ふものを避けガリラヤ海の東北の地を旅行し六ヶ月の間を費し玉ふ〳〵ロデの領地を踏み玉わざりき此期中イエス多くの奇蹟をなし両度其死と甦に就て語りまた其姿を變へ玉ふ此の終に於て七十人を使わし遂にガリラヤに告別をなせり

註冊八、畧題復習　第十七章註三十一を見よ

第一篇　降誕並ゑ三十年間　第一章、道肉躰となれり　第二章、幼時と青年との時代

第二篇　傳道の準備　第三章、洗禮　第四章、試み　第五章、發揚されしと

第三篇　ユダヤ傳道の初歩　第六章、傳道の初まり　第七章、ガリラヤゑ歸玉ふ

第四篇　ガリラヤ傳道の初歩　第八章、會堂にて説教す　第九章、四人を撰ぶ　第十章、ガリラヤ第一巡回傳道

第五篇　變革の期　第十一章、安息日議論　第十二章、復習

第六篇　重なるガリラヤ傳道　第十三章、第十四章、使徒の撰び、山上の説教　第十五章、バプテスマのヨハネ最後の使者　第十六章、ガリラヤ第二巡回傳道　パリサイ人と激論　第十七章、譬の第一集　第十八章、湖の東岸ゑ第一の旅行　第十九章、第三巡回傳道　第二十章、人望の極　第二十一章、人々より見棄らるゝこと

第七篇　微行　第二十二章、避所を尋求め玉ふこと　第二十三章、姿の變り　第二十四章、ガリラヤゑ告別　第二十五章、復習

第二十二章　イエス人々を避けんとおし玉へども能わざりき

銘句、イエスこれを人よ告るなかれと彼等を戒めれば戒むるほど益言揚しぬ　可七〇三十六、

馬可傳七章二十四節より三十七節まで朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬可傳七章一節より十三節まで馬太傳十五章一節より九節までを引合すべし

月曜日　馬可傳七章十四節より二十三節まで馬太傳十五章十節より二十節までを引合すべし

火曜日　馬可傳七章二十四節より三十節まで馬太傳十五章二十一節より二十八節までを引合すべし

水曜日　馬可傳七章三十一節より三十七節まで馬太傳十五章二十九節より三十一節までを引合すべし

木曜日　馬可傳八章一節より九節まで馬太傳十五章三十二節より三十八節までを引合すべし

金曜日　馬可傳八章十節より二十一節まで馬太傳十五章三十九節より十六章十二節までを引合すべし

土曜日　馬可傳八章二十二節より二十六節まで

第二　復習問題　口答

日曜日午後の課

一、今學んとするは何篇なるや

二、之れ迄學びたりし篇の畧題を述よ　註三十八

三、各篇中の重おる事蹟を順次に述よ

四、第六篇の章題は何なるか

五、ガリラヤ傳道より歸り玉ひし後直になし玉へる奇跡は何なるか

六、其奇跡を見て人々如何よ思ひしやまたイエスは如何なることをなさんと望みしや

七、何故イエスは彼等の望を拒絶玉ひしや
八、イエス何處にて如何なる説教をなし玉ひしや
九、此の説教中イエス自らを指して何と曰しや
十、此説教の終りしのち其多くの弟子及び人々如何にせしや其理由を述よ
十一、此の前の章題ハ何か
十二、此の章題ハ何か
十三、其銘句を暗誦せよ

第三　聖書練習問題

月曜日の課

一、五千人を養ひ玉ひし話は馬可傳約翰傳両書の何章よあるや
二、イエス水上を行み玉ふこと並に生命のパンの説教ハ約翰傳何章よあるや
三、ガリラヤハパレスチンの何部にあるや
四、五千人を養ひ玉ひし處とイエス傳道上の極點の起りし處とを地圖にて指

すべし第二十章二十一章を見よ
五、新約全書初の四卷の名を擧よ
六、其次の四卷の名を擧よ
七、第三番目の四卷の名を擧よ
八、第四番目の四卷に次く短かき手書の名ハ何といふや
九、希伯來書の前にある二卷ハ何か
十、希伯來書に次く八卷ハ何か

火曜日の課

イエスとパリサイ人との爭論　馬可傳七章一節より二十三節まで　太十五〇一—二十、

一、生命のパンの説教の終へし後イエスの弟子ヨ就き訴へ出でし人ハ誰なるや其理由を述よ　可七〇一、二、

附言　此等の人々イエスに反對を試んがためエルサレムより來りしならんパリサイ人ハ古人の遺傳を聖書よりも尊む可き守るべきものとせり此遺傳とハユダヤの教法師が書殘せし聖書の解明かり其規則の如きハ皆儀式上のみよして譬バ斷食祈禱等の如きものなり此規則中にハ洗清は就て種々教訓るところあり然ども之只外形上儀式上のみよして毫も眞實を以ておす所おしイエスハ此等の儀式よ從ひ玉ハざりき之を以てパリサイ人イエスを嫌惡せし一理由とす

二、イエス之よ何と答しや　六節の終井に九節

三、イエスが僞善につき彼等に示せし戒を暗誦せよ　十一節出二十〇十二と二十一〇十七を引合すへし

四、パリサイ人が其父母よ務むべきことを欠きをることに就て何と曰玉ひしや　十一、十二節

五、コルバンとハ如何なる意味なるや

答　コルバンとハ神に禮物するといふ意味なり彼等ハコルバンなりと云て自ら使用なし其父母に尽す可もおさず無情の待遇をなす

六、イエスの此の正しき言をきゝてパリサイ人ハ如何なる感をもちしや　太十五〇十二、

水曜日の課

イエスピニシヤよ居り玉ふ　馬可傳七章二十四節より三十節まで　（太十五〇二十一—二十八）

七、パリサイ人と論じ玉ひし後何處よ行玉ひしや　可七〇二十四の初

八、カペナオムより何の方角よ當るやまた幾何里あるや地圖を見よ

九、イエス人に知られんとし玉ひしや如何并に其理由を述よ　二十四の終

十、イエスの許に來りしものゝ誰なるか彼ゝ何の目的ありて來りしや廿五、廿六、

十一、イエス女に何と曰しや　二十七節太十五〇二十四―二十六引合すべし

十二、其言の意味如何

答　イエスの事業ゝ先づユダヤ人になすにあり此の女はサイロピニシヤ人なりしが故よイエスゝ如此言を以て拒みたるなり此時女ゝ其遺屑即ちユダヤ人に與へ玉ふ其愛と恤の餘を我よ與へ玉ゝい足れりと願求めたり（二十八節）

十三、其女の大なる信仰は如何なる報を得しや　太十五〇二十八、

木曜日の課

イエスデカポリスに居り玉ふ　馬可傳七章三十一節より八章九節まで　太十五〇二十九―三十八、

十四、イエスのピニシヤに居り玉ふこと知られしときイエスまた何處に人を避けんとて行きしや　可七〇三十一地圖にて示せよ

十五、其時イエスの許に携來りしものゝ何人なりしや彼いかにして醫されしや　三十二、三十五、

十六、イエス彼に何を命ぜしや彼等イエスよ從ゝざりしゝ何故なるや廿六節銘句

十七、其處に居し時他よなし玉へる奇跡を述べよ　太十五〇三十、三十一節

十八、其時集れる多くの人々の有樣は如何ありしやイエス彼等よ何をなし玉ひしや　可八〇一―九（其話を述よ）

十九、之と同じき奇跡を何時何處よて爲し玉ひしや　約六〇一―十五、

二十、之の奇跡と相似るところまた其異るところを述よ

金曜日の課

イエスダルマタよ居玉ふ　馬可傳八章十節より十二節まで

（太十五〇三十九より十六〇四）

廿一、四千人を養ひし後イエス何處よ行しや　可八〇十地圖にて示せ

廿二、其處に來りしものゝ誰あるや何故に來りしや　十一節太十六〇一、引合すべし

廿三、休徴とゝ何なるや

答　彼等イエスをメシヤとして信じ得べき異能なる事を行すべしと望みたるなり

廿四、イエスの此れ迄に行爲玉ひし奇跡を述よ

附言　此の六ヶ月の間に此の時一度のみガリラヤに至りしがパリサイ人ゝ大に反對せり故にイエスゝ直よ他所へ往き玉ふ

土曜日の課

イエスベツサイダよ居玉ふ　馬可八章十三節より二十六節まで

（太十六〇五―十二）

廿五、パリサイ人と爭論せし後何處に行きしや　可八〇十三、二十二、

廿六、其處よ至る途にて弟子よ如何なる誡をなせしや　十五節

廿七、彼等ゝ如何なる意味にとりしや　十四、十六節

廿八、イエスハ如何なる意味を以て云玉ひしや　太十六〇十二、

廿九、ベツサイダにて如何なる奇跡をおせしやイエス何故秘せんことを望みしや　可八〇二十二―二十六、

三十、此期中イエスの行き玉ひし道路を地圖よて示すべし卽ちカペナオムよりシドンの境に至りヘルモン山の麓を過ぎしデカポリスの道よそひガリラヤ海の東南よ出で夫れよりダルマヌタとベツサイダに至りし道を悉く示すべし、また其幾何里なるやを記すべし

卅一、其場所にてなせし奇跡を順次よ述よ此の中何れの奇跡を最も感じたるや其理由を述べよ

第二十三章　容貌の變化

銘句、六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハネを伴ひ人を避け高山に登り給しが彼等の前よて其容貌かわり其面日の如く耀き其衣わ白く光れり　太十七〇一、二、

馬太傳十七章一節より三節を朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬太傳十六章十三節より二十八節まで

月曜日　馬可傳八章二十七節より九章一節まで路加傳九章十八節より二十七節までを引合すべし

火曜日　馬太傳十七章一節より十三節まで

水曜日　馬可傳九章二節より十三節まで路加傳九章二十八節より三十六節までを引合すべし

木曜日　馬太傳十七章十四節より二十一節まで

金曜日　馬可傳九章十四節より二十九節まで路加傳九章三十七節より四十三節始めまでを引合すべし

土曜日　馬太傳十七章二十二節馬可傳九章三十節より三十二節
路加傳九章四十三節終より四十五節

第二　復習問題

日曜日午後の課（能く研究すべし）

一、註三十八よある略題を尋ね其必要あることに就て問ふべし
二、生命のパンの説教の後直にガリラヤを去りしゝ何故なるや
三、初に何處よ行しや其處にていかなる奇跡をなせしや
四、此の旅行中第二よ行し處ゝ何處なるや其處よてなせし奇跡ゝ何なりしや
五、其時イエスガリラヤの何處まで渡りしや其處よて人々より如何なる待遇を受けしや
六、其後イエス弟子を伴ひ何處よ行玉ひしや其途中彼等よ如何なることを曰玉ひしやまたそこよて如何なる奇跡をなし玉ひしや
七、イエスがカペナオムより此處まで行み玉ひし道路を地圖よて示すべし
八、此の期中イエスゝ殆ど幾何里程行み玉ひしや
九、何故イエスゝ其行き玉へる處々にて自ら人よ知れざらんとを求玉ひしや
十、此の章題ゝ如何
十一、其銘句を暗誦すべし

第三　聖書練習問題

月曜日の課　此等の問題を見出し暗誦すべし

一、馬太傳五章三節より十一節迄暗誦すべし
二、主の祈ゝ何處に記しあるや暗誦すべし
三、イエス其弟子を二人づゝ使ゝし玉へる時の教訓ゝ何處に記しあるや
四、種播と其他の譬ゝ何處に記しあるや
五、希伯來書の前よある諸卷の名を擧げよ
六、希伯來書よ次く諸卷の名を悉く擧げよ

第二十二章三十題を見よ

七、舊約書始の六卷の名を擧げよ
八、其より次く六卷の名を擧よ
九、新約全書の諸卷の畧字を順次より記すべし
十、舊約全書始の十二卷の畧字を記すべし
十一、キリストの時代にパレステンハガリラヤの外幾部に分れしや何々なるや

火曜日の課

ペテロのキリストより就て言揚せしこと　馬太傳十六章十三節より二十節まで　可八〇二十七—三十路九〇十八—二十一

一、ベツサイダにて盲人を醫せし後何處より行きしや　太十六〇十三初

二、人々イエスを誰として考へをりしや　十三終十四節

三、ペテロイエスに何と曰しや　太十六〇十六、

四、ペテロ之を如何にして知しや　十七節

水曜日の課

イエス其死と甦を預言し玉ふ　馬太傳十六章二十一節より二十八節まで　可八〇三十一より九〇一路九〇二十二—二十七、

五、イエス自己に就て如何なる大なるとを最初に現ハし玉ひしや　太十六〇二十一、

六、ペテロ之を聞き何と云しや　二十二節

七、キリスト之に何と答へ玉ひしや　二十三節

八、何故ペテロの如此勇氣を有ちまたキリストの きびしくありしや

答　ペテロのイエスの身より來らんとする恐る可き苦を信ずる能わざりしも イエスの神より授與られたる職務を盡すにの死するの外なしとかれどもペテロのイエスの死を以て其務を果たし玉ふより外に法を設け玉へと說進めんとせり是れイエスの最も好み玉わざる處なり故にイエスのペテロに向ひて如此きびしく云ひ玉へり

九、イエスより從ふことより就き如何なる言を加へしや　二十四節暗誦

十、イエス何處に行んと爲し玉ひしや　二十一節

十一、人の生命を失ことより付(二十五)語り玉ひし語に由れバイエス其弟子の彼に從ふことを望み玉ふの幾許なりと考ふるや　廿五節初

十二、保全すると失ふとより付き何と言しや　廿六節暗誦

十三、イエスを恥る者につき如何なることを言しや　路九〇二十六、

木曜日及び金曜日の課

イエス其容貌を變へ玉ふ　馬太傳十七章一節より十三節まで

可九〇二—十三、路九〇二十八—三十六、

十四、容貌の變りの何處よりありしや弟子の中之を見し者の誰なりしや　可九〇二、

十五、イエス其容貌の變りしとき何を爲しをりしや　路九〇二十九、初

十六、其時キリストの貌如何なりしや　太十七〇二、可九〇三、路九〇廿九を引合すべし

此の三福音に記載するところを見るべし

十七、イエスの傍より立ちし者の誰なりしや彼等何を語りしや　路九〇卅、卅一、

十八、ペテロ何をなさんと望みしや此い何故あるや　路九〇卅二、卅三、

十九、其時如何ある神の証據がキリストに付て與へられしや

太十七〇五、太三〇十七を引合せよ

二十、弟子達之を見て如何なる感を起せしやまたイエス何をなせしや

太十七〇六、七、

廿一、彼等の見しことにつきイエス如何なることを命せしや　太十七〇九、

土曜日の課

鬼に憑れたる小兒の醫されしこと　馬太傳十七章十四節より二十三節まで

可九〇十四ー三十二、路九〇三十七ー四十五、

廿二、翌朝イエス人々の許より歸りてなし玉ひし奇跡い何か

太十七〇十四ー十八、可九〇十七ー二十七、引合せよ口答

廿三、人々之を見て如何ある感じをなせしや　路九〇四十三、

廿四、弟子の之奇跡をなす能いざりしは何故なるや　太十七〇十九、二十節

廿五、ガリヲヤより歸り玉ふ途イエス再び其弟子に如何あることを語りしや彼等いかに受けしや　太十七〇二十二、二十三、

第四　議論問題

廿六、此の容貌の變いイエスが其死の苦よさへ堪へ玉ふことに勵ましを與ふるや否や若し與ふるとせバ之れい如何にしてイエスの死の時より勵を與へしや　路九〇三十一、三十五節

廿七、イエスハ誠に誰なることを弟子達に確心さすよ之容貌の變が幾何の助となりたるや

廿八、其後彼等の中二人ハ如何に之の事に就き記しおるや約一〇十四彼後一〇十六ー十八)此の引合を見て彼等ハ幾何の感化を得しと考ふるや

廿九、三人の外イエスの榮よつき他に幻を見し弟子ハ誰おるや(默一〇九ー十六)両度とも救主の顏ハ如何ありしと記しあるや　太十七〇二、默一〇十六、

三十、我等イエスの榮の日を見るハ何時なるや　太二十五〇三十一ー三十三、默一〇七、初

卅一、其時義人は如何よせらるゝや其理由を述べよ　太十三〇四十三、約壹三〇二、

隨意の課によりて學ぶべし　第十三章註三十を見よ

第二十四章　イエス遂ヨガリラヤを去り玉ふ

イエス嬰兒を召かれらの中に立て曰けるハ我まことよ爾曹に告んもし改まりて嬰兒の如くならずバ天國に入ることを得じ　太十八〇二、三、

馬太傳十八章一節より十四節まで朗讀すべし

第一　日課

日曜日　午後　馬太傳十七章二十四節より二十七節まで

月曜日　馬太傳十八章一節より十四節まで

火曜日　馬可傳九章三十三節より五十節まで　路九〇四十六ー五十、

水曜日　馬太傳十八章十五節より三十五節まで

木曜日　路加傳十章一節より十六節まで

金曜日　約翰傳七章二節より十節まで路加傳九章五十一節より六十二節まで

土曜日　路加傳十七章十一節より十九節まで

第二　復習問題

日曜日午後の課

一、註三十八にある諸題を尋ぬべし

二、今學びつゝあるハ何篇なるや

三、此篇中より學來りし章題は如何

四、ペテロキリストに就如何なる言を言揚せしや

五、ペテロの何時何處にて此の事を言しや

六、イエス自につき最初より如何なることを豫言せしや

七、容貌の變の何處にてありしや誰が其を見しや

八、其貌の變りし時イエスの如何なる樣なりしや

九、其時現れし者の誰なるや彼等如何なることを語りしや

十、天より聲ありて何と曰しや

十一、翌朝山を下りて如何なる奇跡をなせしや

十二、カペナオムより歸る途中イエス其弟子にふたゝび何を語りしや

十三、此の章題の如何　銘句を暗誦せよ

第三　聖書練習問題

月曜日の課

一、貌の變りの話の馬可傳路加傳何章にあるや

二、馬太傳十六章十六節にある如き言の約翰傳六章の何節にあるや

三、イエスの祈をおし玉ひしことにつき記しある處を悉く路加傳中より見出すべし　路五〇十六、九〇十八、二十九、二十二〇四十一、其他にもあり

四、此の篇中にイエスの旅行おし玉ひし地名を地圖によて指示すべしまた其中に起りし事蹟を順次に述よ

五、キリストの時代パレスチンの三部に分れ居れり何々なるや

六、新約全書の諸卷を順序に述よ

七、舊約書始の六卷の名を擧よ

八、其次の六卷の名を擧よ

九、其次の六卷の名を擧よ

十、詩篇の前に幾卷あるや

十一、詩篇の後に幾卷あるや

十二、一人の生徒をして新約全書より諸卷を撰バしめ他生をして其略字を述しめよ

第四　筆答問題

此の課ハキリストのガリラヤ傳道の終期中に起りし事蹟を記す即ち第一魚の口より税金を取りし奇跡第二イエス其弟子に謙遜と人の罪を赦すことに付ての教訓第三七十人を遣ハし玉ふ第四イエスガリラヤを去り玉ふ第五エルサレムよ行く途中よて起りしことを記す教師へ第三より第五迄よ記したる事蹟の順序は種々の説ありて一定せず近世の學者輩ハみなイエス傳道の最終の期の中頃にガリラヤを去り玉ひ再び歸へり玉ハざりしとの説を有つ七十人を遣ハし玉ひしハガリラヤを去りし後なるやまたハ以前なりしや第五に記せる事蹟ハ悉く示せる順序にて正しきや否ハ未定あり

火曜日の課

魚口より金を得る　馬太傳十七章二十四節より二十七節まで

一、貌の變りし後イエス何處に行きしや　二十四節初

二、其時如何なることありしや　二十四―二十七節

三、納金とハ何か

答　ユダヤ人一年一度主の神に捧ぐる金にして殆ど三十錢許なり　出卅〇十一―十六

水曜日の課

キリスト嬰兒よ就て語り玉ふ　馬太傳十八章一節より十四節まで

四、カペナオムに行く途中弟子達互に何を爭ひしや　可九〇二十三―三十七、路九〇四十六―四十八、可九〇卅三、卅四、

五、イエス其大なるものハ何人なりと曰しや　可九〇三十五、

六、イエス之を如何よ説示せしや　太十八〇二―五、可九〇三十六、三十七、引合すべし

七、小子を礙す人につきて如何なることを云ひしや　太十八〇十六、

八、小子とハ誰乎

答　只嬰兒の如きものゝみならず凡て信仰の薄弱なる者即ち善き教訓と助を受く可き者をさしていふなり

九、如此人ハ天使いかに見るやと曰玉ひしや　太十八〇十、

十、天使等ハ誰に事ふる靈なるや　來一〇十三、十四節詩篇三十四〇七引合すべし

十一、神ハいと小子なりとも常に守護玉ふことにつき如何なる美ハしき譬を語りしや　太十八〇十二―十四節

木曜日の課

人をゆるすことよつきキリストの教訓　馬太傳十八章二十一節より三十五節まで

十二、キリストハ人の罪を幾度ゆるすべしと曰ひ玉ひしや　太十八〇廿一、廿二、

十三、山上の説教の時ゆるしよ就き何を語りしや　太六〇十四、十五、

十四、神の我曹が犯せる罪をゆるし玉ふよ寛大なることかつ我曹人をゆるすことなきを憎み玉ふことよつきいかなる譬を語りしや　太十八〇二十三―二十五、

金曜日の課

七十人を遣ハし玉ふ　路加傳十章一節より十六節まで

十五、ガリラヤを去る前に當り如何して七十人を遣ハし玉へるや其目的如何　路十〇一節

十六、彼等出足する時に當り如何なる訓を與しや　路十〇三―十二、日答

十七、之と同じ訓を如何なる人々に與へしことあるや　太十〇一―十五

十八、イエスガリラヤを去り玉ふ　當り其市につき如何なることを語りしや　路十〇十三―十六

十九、イエスが此市に於てなし玉ひし大かる事業を學よ

土曜日の課

イエス終よガリラヤを去り玉ふ　約翰傳七章二節より十節まで路加傳九章五十一節より六十二節まで同十七章十一節より十九節まで

二十、此時ユダヤの何節ありしや　約七〇二、

附言　此節ハ十字架ニ釘ケ六ヶ月前のことなりし

廿一、イエスの兄弟等いかよせんことを望みしや　約七〇三、四、

廿二、彼等イエスをいかに見做せしや　約七〇五、

廿三、イエス彼等に何と答へしや　其後イエス如何よせしや　約七〇八―十

廿四、此の旅行中サマリヤ人よより如何よ侍遇れしや及び其理由ハ如何　路九〇五十一―五十三、

廿五、此の時ヤコブとヨハネハ何と言しやイエスいかよ答しや　路九〇五十四―五十六、

廿六、サマリヤとガリラヤを歴行玉ふ途中いかなる奇跡をおせしや　路十七〇十一―十九、要点を述べよ

第五　議論問題

廿七、改るとゝ如何なる意味なるや　馬太十八〇二、三、

廿八、嬰兒の如くなるとゝいかなる意味か

廿九、何故天國に入るに此の二つのことが必要なるや

三十、半心イエスに從ゝんとせしものに何と曰玉ひしや　路九〇六十一、六十二、六十三、暗誦せよ

卅一、何故神國に入るためにイエスに常に從ふゝ大切なることなるや

第二十五章　復習　キリスト傳道上の變革よりガリラヤを去り玉ふ期までに至る

如此いへる時かゝやける雲かれらを蔽ふ聲雲より出で言けるゝ此ゝ我旨に適ふわが愛子なり爾曹之に聽べし　太十七〇五、

第一　日課

此の日課ゝキリスト生涯の此の期中の重なることを順序に考へ出す爲めなり

日曜日　午後　路加傳六章十二節より二十六節まで馬太傳五章一節より十二節まで

月曜日　馬可傳三章二十節より三十五節まで

火曜日　馬可傳四章一節より二十五節まで

水曜日　路加傳八章二十二節より三十九節まで

木曜日　約翰傳六章一節より十五節まで四十一節より六十節まで

金曜日　馬可傳七章二十四節より八章十節まで

土曜日　路加傳九章十八節より三十六節まで

第二　銘句答案

凡て朗讀すべし

此に記するゝ各章中よりの一問答づゝを載すもし暗誦なし得るものゝ一同銘句を暗誦するもよしまた此よ載する答案を讀むもよし

第十三、教師ニダヤ人の重なる司達の宗教の有樣ゝ如何なるものなりとイエ

スイの言玉ひしや

生徒我爾等に告ん學者とパリサイの人の義よりも爾曹の義こと勝ずば天國に入ること能ず、太五〇二十、

第十四是故に眞正の弟子の行爲に付何と曰玉ひしや

入ふ非ず唯これに入者ハ我天ふ在す父の旨に遵ふ者のみなり　太七〇二十二、二十一、

第十五疲たる者重を負へるものにいかゐる恤ある約束をなせしや

凡て勞れたるものまた重を負へる者ハ我に來れ我汝等を息ません我ハ心柔和ふして謙遜者なれば我軛を負て我に學へなんぢら心に平安を得べし

蓋我が軛ハ易くわが荷ハ輕ければ也　太十一〇二十八―三十、

第十六孰れにもつかず中立する能ハざる事につき何といひ玉ひしや

我と偕ならざるものハ我に背き我と偕に斂ざるものハ散す也　太十二〇三十、

第十七海邊ふて譬を語りし時いかなる注意の語を吐しや

是を言畢て呼りけるハ耳ありて聽ゆるものハ聽くべし　路八〇八初

第十八暴風を靜めし時人々イエスふ付て何と曰しや

人々奇みて曰けるハ此ハ如何なる人ぞ風も海も之に從ひたり　太八〇廿七、

第十九イエスを人々の前ふいひあらハすことにつき何と曰しや

然ば凡そ人の前に我を識と言ん者を我もまた天に在す我父の前に之を識と言ん人の前に我を識ずと言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を識ずと言ん　太十〇三十二、三十三、

第二十イエスの五千人を養ひ玉ひし後人々彼を誰として確心せしや

人々其行し奇跡を見て此ハ誠に世に臨るべき預言者ありと曰　約六〇十四、

第廿一我曹の心靈上の生活に關してイエスは自を何と曰しや

イエス曰けるハ我ハ生命のパンなり我ふ就る者は餓ず我を信ずるものハ

恒に渴くことなし　約六〇三十五、

第廿二、人々の知らざらんを望み玉へど能わざりしわ何故なる乎
イエス之を人に告る勿れと彼等を戒むれば戒むるほど益言揚しぬ　可七〇三十六

第廿三、カイザリヤピリピの傍よて起りし最驚く可き出來事わ何か
六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハネを伴ひ人を避けて高山に登り給しが彼等の前にて其容貌かはり其面日の如く輝き其衣は白く光れりモーセとエリヤ現れてイエスと偕に語りぬ　太十七〇一―三

第廿四、神の國よ入るにわ如何なる心靈上の働きと性質を要するやとイエスわ曰玉ひしや
イエス嬰兒を召びかれらの中に立て曰けるわ我まことに爾曹に告んもし改まりて嬰兒の如あらずば天國よ入ることを得じ　太十八〇二―三、

第三　第六篇の問題

重なるガリラヤ傳道大に其働を擴め玉ひし時人々の中に彼を信ずる者增加したること、パリサイ人の反對の增進

問題の側一行空處へ答をかくべし其他わ口答なり

第一二四題の答に學ひて毎日其支度をなすべし　一、二、四、の如き簡單なる答ハ他の所にも記すべし

一、安息日よ手なへたる人を醫せしことに由りパリサイ人イエスを殺さんと企てし時イエスわ直に何をなし給しや　路六〇十二―十六、

答　十二使徒を撰び給へり

二、其時如何ある說教を爲せしや　太五〇一―八〇一、

答　山上の說教なり

三、馬太傳五章三節より十節まで暗誦すべし

第十三章に習ひ其句の重なる語を記すべし

四、此の說教の後直に行ひし三つの奇跡わ何か

百夫の長の僕のいやされしこと　路七〇一―十一、

ナインの息子の甦されしこと　路七〇十一―十七、

五、此等の事を聞きひとやよりイエスの許に使いせし者は誰なるか其何故なるや　路七〇十八―二十三、

六、パリサイ人の家にて食事をなし玉へる時いかなることありしや　路七〇三十六―五十、

答

七、ガリラヤ第二巡回傳道の時イエスと偕に行きしものゝ誰なるや路八〇一―三、

答

八、カペナオムに歸らんとするとき誰と激論せしや　太十二〇二十二―卅七、

答

九、此後直に海邊にて人々に語りし五の喩譬ゝ何々なるや

答　太十三〇一―九

太十三〇二十四―三十

可四〇二十六―二十九

太十三〇三十一―三十二

太十三〇三十三

十、家に於て其弟子に語りし三の喩を記すべし

答　太十三〇四十四

太十三〇四十五、四十六

太十三〇四十七、五十

十一、此等の譬中天國より付て教ゆる處を示すべし

十二、此等の譬を語りし後直ちにガリラヤ海の東岸に旅行せし間なし玉ひし二奇跡を擧よ

答　可四〇三十五―四十一

可五〇一―十三

十三、カペナオムに歸りて爲し玉ひし四奇跡を擧よ

答　可五〇二十五ー三十四
可五〇三十五ー四十三
太九〇二十七ー三十一
太九〇三十二ー三十四

十四、第三ガリヲヤ巡回傳道と他の一二と異る点を述べよ　可六〇七、

答

十五、イエスの名の爲め他人よ善行をなす者にハ如何ある約束を與へ玉ふや
太十〇四十二、暗誦

十六、第三巡回傳道より歸り玉ひし後直になし玉ひし奇跡を述べよ

答　約六〇一ー十三、

十七、此の奇跡より由り人々イエスを如何にせんとせしや　約六〇十四、十五、

答

十八、翌日何處にて如何なる説教をなし玉ひしや　約六〇二十二ー五十九、

答

十九、此の説教より因り多くの聽衆と其弟子達の多くハ如何よなりしや

答　約六〇六十ー六十六、

二十、此の傳道の期ハ幾ケ月計なるや此篇中の諸章を擧よ

第四　第七篇の問題

ツロ、シドン、デカポリスとカイサリヤ、ピリピの土地を徴行なし玉ふこと

廿一、生命のパンの説教後イエスを咎めんとせしものハ誰なるや可七〇一ー十三

答

廿二、此の後イエス何處に行玉ひしやベツサイダに行玉ひし時までのあひだ行るき玉ひし地を示せ且つ其處よて起りし事蹟を述よ　可七〇二十四ー八〇廿六、

廿三、イエスベツサイダを去りし後カペナオムよ歸り玉ふ前に起りしイエス

の生涯中の四大事を述べよ

答　太十六〇十三ー二十

同十六〇二十一ー二十三

同十七〇一ー十三

同十七〇十四ー二十

廿四、カペナオムより歸りて如何なる奇跡をなし玉ひしや　太十八〇二十四ー廿七、

答

廿五、ガリラヤを去らんとし玉ふ時誰を使はせしや　路十〇一ー十二、

答

廿六、イエスガリラヤを去り玉ふ終り時如何なるユダヤの節ありしや此の時は十字架に釘られ玉ふ如何程前なるや　約七〇二ー十、

答

廿七、此の篇は幾何期のあひだなるや其諸章を擧よ

廿八、イエス第一ガリラヤ巡回傳道を初玉ひし時とガリラヤを長く去り玉ふ時までにエルサレムに一度ゆき湖の東岸より重なる巡回をなし又第七篇に記せし如し諸所に旅行をなし玉へり右の六旅行を地圖に記し諸色ペンにて八章にある地圖に記すべし

廿九、今までパレスチン中にて學びし處を地圖にて示すべし

基督傳問題上卷終

明治二十六年三月廿四日印刷
明治二十六年三月廿五日出版
（定價貳拾五錢）

譯者　群馬縣前橋在留米國人
　　メレー、エチ、シャツド

發行者　大阪市西區土佐堀三丁目卅八番屋敷
　　今村謙吉

印刷者　大阪市西區新町通四丁目百六番屋敷
　　矢部外次郎

發賣所　大阪土佐堀三丁目三十八番屋敷
　　福音社

關東賣捌　東京市京橋區出雲町一番地
　　警醒社書店

ㅋ2P27

各府縣賣捌所

神戸元町	福音舍	大阪新町	矢部晴雲堂
横濱地藏阪	福音舍	備前岡山	復生堂
函館相生町	福音舍	東京々橋區	十字屋
仙台新傳馬町	大塚書店	仝	聖公會書類會社
京都今出川	クリスチャンボード		
大阪京町堀	吉東書店	仝	メソヂスト出版社
仝 老松町	岡本光塩堂	仝	一二三書店

34
c.62

020558-001-2

34-62

基督伝問題（教科適用）

ハーパル／著

1冊（上261）
M26

ABI-0371